

E 9 住生活とごみの関わりに関する研究

第1報 ごみの種類・量を規定する要因

日女大 家政 沖田富美子 小川信子

研究の目的 近年地球環境問題の一環として、ごみ問題が重視され多くの試みや成果が発表されている。筆者らも家庭から排出されるごみに焦点を絞り、住生活的見地からこの問題解消方法への視点の追究を試みている。本研究は、特にこれらのごみのうち食生活に関連するごみの内容や量を規定する要因を、明らかにすることを目的としている。

研究の方法 東京及び東京近郊の集合住宅に居住する、子供を有する家族世帯10世帯に3日間（平日2日、休日1日）のごみの内容（粗大ごみ、新聞雑誌などのリサイクル品は除く）をすべて、朝・昼・夕食別及び間食等の食生活とその他日常生活とに分け記入、さらにその重量と容量を計測し記述する事例的調査を行った。調査期間は、1991年2月である。

研究の結果 ●ごみの内容とその総量 記入されたごみの内容は多種多様である（表省略）。しかも10世帯から3日間に排出されたごみの総量は、重量にして35,400g、容量としては354.6ℓであり、そのうち食生活に関するごみの総量は、78.3%（重量）57.5%（容量）を占め、中でも生ごみの占める割合はかなり高くなっている。なお生ごみのうち非調理時の生ごみが約25%を占めており、食べずに捨てられる食品が多いことを示している。さらに世帯別、日時別によっても排出されるごみの総量は異なる。●ごみの内容と量を規定する要因 少数事例の結果（家族成長前期長子12才以下9例、家族成長後期長子13～19才1例、夫婦年齢35～40才）であるが、嗜好の違い、調理方法、家族構成、家族生活の仕方、ごみ収集状況などがごみの内容を、また食生活の形態（ライフステージや世帯主の食事状況）や生活態度（もったいない意識）などがごみの量を規定する要因としてあげられる。